

とうきょう すくわくプログラム活動報告書

園名	府中保育園
期間	令和 6 年 6 月～ 12 月

1. 活動のテーマ

<テーマ>

保健：

「自分の体を大事にするということを子どもたちに伝える」

<テーマの設定理由>

子どもたちから“近くに顔を持ってくる”や、“髪の毛をさわったりにおいがかがれていやだった”“手をつなぎたいのにいやだっていわれた”などの声が聞かれた為、子どもたちがプライベートゾーンやいいタッチ悪いタッチについて自分たちで考えて話し合う、よい機会と思いこのテーマにした。

体の話、命の話を聞く機会があまりないまま大人になってしまう人もいると思う。

自分の身を守る知識は幼児期から必要とされている。

就学前のぶどう組の子どもたちに伝えることで、将来的に性被害に巻き込まれたりすることを防ぐこともつながるという思いがある。

子どもたちが体を守る為に適切な対応を知り、自分の体を大切に、自分は大切な存在なんだと、わかってほしい為。

2. 活動スケジュール

第一段：6月「プライベートゾーンの話」〔講義形式、グループ形式〕

水遊びの始まる前にプライベートゾーンの話をする。

第二段：10月「いいタッチ、わるいタッチ」〔グループ毎にディスカッション形式〕

5グループに分かれて皆で考え話し合い、発表してもらう。

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

・プライベートゾーンの話

“だいじだいじどーこだ”の絵本

男の子と女の子の水着のイラスト、プライベートゾーンについてのお約束のカード

・いいタッチわるいタッチ

8枚のいいタッチわるいタッチのカードを6セット

少人数のグループに分かれて行う。各グループの机に貼る。

4. 探究活動の実践

<活動の内容>

- 第一段では、体は大切という導入から、水遊びで着替えが始まる前にプライベートゾーンについて、なぜ大切なのか伝えた。
- お約束のカードを見ながら、わかりやすく理由を説明した。
- 第二段では、いいタッチわるいタッチについて子どもたちが主体となって考え、話し合えるように、また、今回のテーマである“遊び”の要素を取り入れてカードゲーム形式にした。
- 6～7人の少人数のグループで話し合うことで、皆で意見を言い、考えた。
- ひとりひとり全員が皆の前で発表した。

<活動中の子どもの姿・声、子ども同士や保育者との関わり>

○プライベートゾーンの話の前日に

【だいじだいじどーこだ】の絵本を見てもらう。

絵本をみながら子どもたちが「“パンツ”だいじー」と言った。



○プライベートゾーンの話の後、子どもたちに

確認したところ、水着のイラストを見て

「他の人に見せない」

「他の人を見ない」

「だって、たいせつな場所だからー」

との声が聞かれた。

「男の子も女の子のような水着きていいの？」

と聞いてきた。“いいよー”と答えた。



○いいタッチわるいタッチ

- ・1枚ずつ、絵カードをグループ毎みんなで考えていた。

「自分だけでやらないよー」

「みんなでやるんだよー」

- ・1枚のカードに対し「叩いているようにみえる」、「笑いながら髪の毛引っ張っているように見える」と意見が分かれたカードもあった。

- ・おしりに手を当てる絵カードをみて

「そこは大事なところだから、悪いタッチ」



看護師が用意した絵カード



5. 次につなげたいこと

- ・第一段のプライベートゾーンの話の水遊び前にすることで、子どもたちも真剣に聞いて頷いてくれたので良かった。
- ・第二段で分かりやすい絵カードのゲームにすることで、子どもたちが興味を持って考えることができて良かった。
- ・いいタッチわるいタッチと意見が分かれたカードがあったので、子どもに分かりやすい絵に変更した。
- ・保育者がフォローに入る事で、子どもたちの意見を引き出してもらうことができて良かった。
- ・進行している職員だけでなくクラスの皆に向けて発表する、ひとりひとりの意見を聞くという、いい機会になった。

6. 次の活動

<活動内容、新たに準備した素材・設定等>

第三段：12月「いのちの話」

いのちの話〔講義形式と体験形式〕←実際と模擬体験の2つ

- ・ハートの画用紙（小さな穴を開けた）
- ・いのちの話のスライド
- ・聴診器2つ
- ・新しく購入してもらった赤ちゃん人形と、ベビー服

<活動中の子どもの姿等>

○命の始まりの大きさについて話し、

ハートの小さな穴を覗く。

「みえなーい」
「あ。みえなー」
「えー、ちっちゃーい」
「ピンク、かわいい」

○お母さんのおなかの中でどんな風に大きくなっていったのかをスライドを見せながら伝えた。

「耳が聞こえるんだー！すごい」

○赤ちゃん人形を見せながら、胎盤とへその緒を外して、伝える。

- ・真剣に、静かに話を聞いていた。
- ・赤ちゃん人形をじっとみている姿があった。

○体重3000gの赤ちゃん人形を一人一人抱っこする。

「首がゆらゆらしている」
「かわいいー」
「重ーい」

本物の赤ちゃんと同じ重さと伝えと、
「はじめて抱っこしたー。かわいい」と。
自然とやさしく支えるように抱っこし、
みんな笑顔になっていた。

○自分の心臓の音を聴診器で聞く。

「はじめて聞いたー」
「おもっていたのと違った」
「どんな音だった？」と友だちに聞く。
「どんどん！って」
「どんどん！」とお互い笑い合っていた。



7. 振り返り

<本活動によって得た保育者の気づき>

- ・プライベートゾーン、いいタッチ悪いタッチ、いのちの誕生の話は、いつもは看護師側から伝える、指導する形の保健指導だった。今回、子どもたちの声をきっかけに子どもたちで考えてもらい自分たちのこととして興味を持って考えてもらえるのではないかと感じた。そこで、子どもたちが他の子のお話を聞く姿勢を持ってもらう為に何がよいのか考えた。
①少人数のグループで話し合える環境をつくる ②すぐわくのテーマが“遊び”なので“カードゲーム形式”とした。その結果、子どもたちの意見を引き出すことができたこと、子どもたちが考えて話をしていた姿が見られた。
- ・“見せちゃだめ、だって大事な場所だから”や“手をつなごう”“いいよ”と声に出してやりとりして、普段過ごす中でいいタッチ悪いタッチやプライベートゾーンについて考え、自然とできている姿がみられ、伝わったんだと感じた。
- ・一方的でなく、子どもたちと一緒に考えて保健の話をしていく形に変えたことで、子どもたちが自分たちは大事な存在で大切な体と命なんだと確認でき、自己肯定感を上げることができたのではないかと感じた。
- ・画像に残したことで全職員で共有することができ、子どもたちをより理解することができた貴重な研修になった。